

2015年ネパール地震から1か月の被災地事情（速報）

静岡大学防災総合センター 岩田孝仁

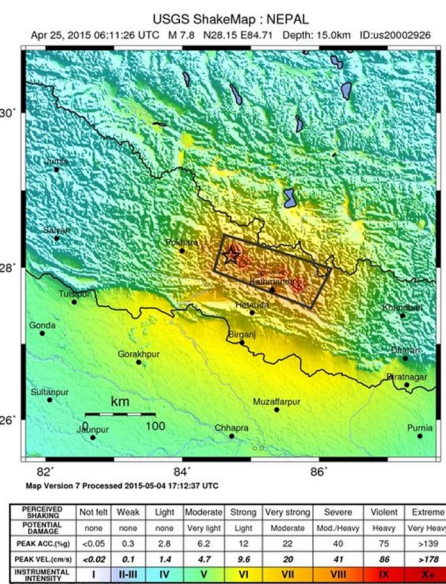
- ・ 調査メンバー 岩田孝仁（静岡大学防災総合センター 教授）
 小野田全宏（特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 常務理事）
 木村拓郎（一般社団法人 減災・復興支援機構 理事長）
 マハラジャン ナレス（ナマステ・ネパールしずおか 会長）
- ・ 調査期間 2015年6月5日～10日（11日帰国）
- ・ 主な訪問地、訪問先
 カトマンズ市、パタン市、ヌワコット郡トリスリー、ゴルカの被災地
 トリスリー診療所、ゴルカ女性自立支援施設、カッポン学校、
 首相官邸、JICA ネパール事務所

1. はじめに

2015年4月25日に、ネパール国の首都カトマンズ北西約77km、深さ15kmを震源とするマグニチュード7.8の地震が発生した。震源域はカトマンズを含む東西約150kmに広がる。5月12日には震源域の東端付近を震源とするマグニチュード7.3の地震（広い意味での余震）が発生した。ネパール国首相によると、この一連の地震による死者は9,000人に及ぶという。今回の地震は、ネパールや隣国インドのビハール州で1万人以上が犠牲となった1934年のマグニチュード8.2の地震以降で最大の被害地震となった。

地震から1か月が過ぎた現地の情勢や復旧・復興の方針などについて調査を行った。

注1) ネパール連邦民主共和国：人口約2,659万人、面積14.7万km²、首都カトマンズ



2. 被害状況

(1) カトマンズ盆地（カトマンズ市、パタン市）

①世界遺産構成施設など

煉瓦と石と木材で造られていた歴史的な建造物や世界遺産の寺院などの多くが大きく損傷している。

カトマンズのダルバール広場の旧王宮や寺院建物群の多くがかなり激しく損壊している中、クマリの館がほぼ無傷で残っており、地元の人々は神が守ったと話している。倒壊したシバ寺院のガレキ跡には避難者が早速テント2張で生活す



るたくましさがある。

旧市街の中心にそびえていた煉瓦造のビムセンター(高さ 52m)は倒壊し、塔に登っていた 40 名が犠牲となった。



カトマンズの西郊外の丘の頂上に建つネパール最古の仏教寺院スワンプナートでは、仏教寺院の白いストゥーパはほぼ無傷であるが、周囲に同居するヒンズー教寺院群や宿泊所かなり激しく損傷している。



ガンジス川の支流、パグマティ川の川岸の火葬場で有名なパシュパティナート(ヒンズー教寺院)では、寺院本体の損傷はさほどではないが周辺施設の一部に大きな損傷が見られる。



パタンのダルバール広場の旧王宮や寺院もかなり損傷している。カトマンズのダルバールとの大きな違いは、地震後、ネワール人の住民を中心に広場のガレキが撤去され、きれいに片づけられていた。



②住宅街

旧市街の住宅街の多くは、細い路地の両側に間口が 4 m から 5m ほどの中層(4 階から 6 階程度)の建物が密集して建てられている。無筋の煉瓦造の建物も多くみられるが最近の建物は断面 25×30 cm程の鉄筋コンクリートの柱と梁を軸として壁は煉瓦で固め、表通りに面した壁はモルタル仕上げとする工法が一般的である。



最初に 2 階建ての建物を作り、その際、鉄筋コンクリート柱を上へ伸ばしておき、資金がたまと上層階を積み上げていくのが一般的のようで、こうして積み上げられた 6 階、7 階建ての建物もみられる。

